

2017年5月26日

石狩市長 田岡克介 様

「風力発電等に係るゾーニング導入可能性検討モデル事業」推進に係る要望書

石狩湾岸の風力発電を考える石狩市民の会
代表 安田 秀子
石狩市花川北1条5丁目307 電話:74-6198

平成29年4月18日に開催された石狩市市議会厚生常任委員会の休憩中に、環境省の委託事業である「風力発電等に係るゾーニング導入可能性検討モデル事業」に、石狩市が応募し採択されたことについて説明がありました。関連情報について担当部署からの説明があり、市議会議員との質疑応答もされましたが、「申請段階であるため内容が未確定」とのことでした。追って5月8日に、当会からの要望を受け入れていただき、担当部局から当会に対しこの事業内容について説明をしていただく機会を得ました。多忙の中、時間を割いていただいたことに感謝しております。しかし、詳細についてはまだ、環境省とのやり取りの最中であり、決定していないということで聞くことはできませんでした。また、担当部局の考え方についても明確なものを聞くには至りませんでした。全てが決定する前に市民の声を届ける必要性を強く感じましたので、以下に私たち市民の要望を記載いたします。

1 石狩湾新港周辺において事業が進行中の4事業もゾーニング検討の対象にすることを求めます。

現在、石狩湾新港工業団地周辺と団地内に、石狩湾新港風力発電所（3300kW・3基、建設中）、銭函風力発電所（3400kW・10基、アセス手続き終了）、石狩コミュニティウインドファーム（3200kW・7基、アセス手続き終了）、（仮称）石狩湾新港洋上風力発電事業（4000kW・26基、アセス評価書準備中）の4事業が建設中、あるいは事業計画が進行中です。近接したエリアに各事業が独立して計画、環境影響評価においても4事業の累積影響をきちんと評価されることなく、進行している現状があり、大変大きな問題を抱えております。4事業は、最寄りの工業団地既存事業所との距離約120m、最寄り住居との距離約850m、最寄りの保育所との距離約1.4kmと多くの既存事業所と住宅（石狩市および札幌市手稲区、小樽市も含む）、および環境の配慮を要する施設が密集している場所に近く、特に健康影響についてきちんと評価される必要があります。世界でもこのような人口密集地に近接して、3000kW以上の大型風力発電施設46基が建設されるという例はありません。このまま建設されると壮大な

人体実験が行われることとなります。この場所が 46 基の大型風力発電施設建設に相応しい場所なのか、ゾーニング事業の中で是非、検討することを求めます。

この 4 事業が行われると、石狩湾新港工業団地の立地環境は著しく損なわれ（騒音・超低周波音・低周波音、シャドーフリッカーによる悪影響により）、新規参入はなくなり、既存事業者の撤退もあり得ると考えられます。また、石狩市の住宅地、札幌市の手稲区・北区、小樽市銭函の広範囲の数万人に対する健康影響の懸念が生じます。

2 風力発電施設による健康影響について十分にかつ適切に多面的に評価することを求めます。

環境省より、風力発電施設から発生する騒音等の評価手法に関する検討会がまとめた報告書「風力発電施設から発生する騒音等への対応について」（平成 28 年）が出されましたが、残念ながら、世界の動向と相容れない内容となっています。報告書では風力発電施設からの音は騒音レベル（A 特性音圧レベル）による評価で行うとありますが、WHO の環境騒音ガイドライン（1999 年）では、すでに、風力発電施設等、「低周波音が卓越している場合、A 特性騒音レベルによる評価は不適切である」とし、「より低いガイドライン値が推奨される」としています。

また、報告書では低周波音による健康影響を否定していますが、WHO のガイドラインでは、「低周波音の場合には、低い音圧レベルでも休息や睡眠を妨害する可能性がある」とし、「環境性睡眠障害」（疾病）の発症の可能性を指摘しています。

私たち一般市民は、より安全・安心な生活環境および労働環境を望んでいます。この度の環境省報告書については、到底受容できるものではありません。従って、健康影響の評価にあたっては、環境省報告書ではなく、海外の信頼のおける知見等に基づき、公正な視点に立って行うことを求めます。

3 検討委員の人選について

ゾーニングに当たり一番重要な視点は、2 にも書きましたが、風力発電施設による健康影響を適切に見極めることと考えます。そのことができるのは、国内では北海道大学教授松井利仁氏となります。全国に誇れるモデルケースとして、ゾーニングにおける健康影響評価の手法を、先生の協力のもと、是非とも確立して欲しいと思います。石狩市で確立した手法によりゾーニングしたことで、どこにも健康被害が生じないということになれば、大変素晴らしいことなのではないでしょうか。

また、風力発電事業者を検討委員に含めることには反対です。ゾーニングには公正な視点が必要となります。公募で一般市民の参加も必要と考えます。

4 精密騒音計の購入

今後も、石狩市が風力発電事業に係ったり、導入したいのであれば、超低周波音・低周波音が測定できる騒音計を持つことは必要と思います。